



第4会場 ● 4F 大研修室

■司 会／續 洋子 沖縄県NPO法人なはまちづくりネット 職員
馬場 尚登 大分県教育庁社会教育課 社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

**1 地域の特色を生かした青少年体験活動の再開
—しまなみ尾道瀬戸田ウォータースポーツ教室—** 13:35~14:05

中本 重徳(広島県尾道市 尾道市役所瀬戸田支所しまおこし課 主査・瀬戸田生口地区子ども育成連合協議会)

瀬戸田町は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する海に囲まれた2つの島で構成された地域である。行政主体で開催していた水泳・海洋スポーツ教室が、市町村合併後(平成19年度)に開催されなくなった。この度、次代を担う子どもたちに、島の特色を活かし、島ならではの体験をしてもらうことを通して、青少年の心身の健全育成に寄与することと、世代間・他地域との交流を促進することによる地域の活性化を目的に、子ども会・瀬戸田町水泳部・瀬戸の海にあそぶ会・瀬戸田町セーリングクラブ等の団体が中心となって、水泳教室、海洋スポーツ教室、キャンプ教室を復活させた。

**2 トーンチャイム演奏を通しての多面的な社会貢献活動の過程と成果
—トーンチャイムグループ「すいてんはーと」の10年—** 14:10~14:40

武智 理恵(愛媛県松山市 トーンチャイムグループ「すいてんはーと」代表)

活動開始は平成13年。活動はトーンチャイムの特性を生かした教育楽器としての演奏体験を重視する一方、音楽療法の機能を駆使して年間60か所以上の各種施設を訪問している。主要な活動場所は、幼保の施設、学校、アイ・サービスホーム、病院などのほかにイベントなどにも出演する。状況・要望に応じて絵本やパネルシアターと組み合わせたり、体験コーナーを設置するなど参加者とのコミュニケーションを重視している。音楽療法を展開しながら視聴覚のしょうがいを持つ人々とのつながりができたことを成果としている。

ティータイム 14:40~15:05

**3 国が仕掛ける「子ども農山漁村交流プロジェクト」の
自然体験学習とグリーンツーリズムの促進策** 15:05~15:35

山口 久臣(熊本県 (有)野外教育研究所アイオーイー 代表取締役所長)

平成20年、文科省、農水省、総務省の連携事業として開始された子どもを対象とした国策の「自然学校」事業である。5年後には全国の小学5年生120万人がグリーンツーリズムの形で農山漁村に滞在し体験学習と交流を行なうことになっている。当野外教育研究所は九州ブロックコーディネイト組織として、受け入れ体制の整備、指導者の育成、体験プログラムの創出、安全対策などを担当している。当面の予算は5年限定で国が計上するというものである。この3年の間で沖縄県を除く九州7県で約30地域に受け入れ可能な体制が整備された。

4 子どもによる子どものための美術館 15:40~16:10

中込 潤(福岡県直方市 直方谷尾美術館 学芸員)

2005年活動を開始。毎年春に子どもスタッフを募集し、「子どものための美術館」と題した展覧会を子どもの手で開催する。展示作品の選定、紹介、広報、ギャラリートークなども子ども自身の手で行なう。作家との交流、商店街の依頼への対応、成人式の垂れ幕づくりなど地域における子どもの居場所と活躍のステージを併せて創造している。2010年朝日のびのび教育賞を受賞。